

ブログ「中東と石油」(日本語): https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943

ホームページ MY LIBRARY(日本語): <http://mylibrary.maeda1.jp/>

エネルギー総合: <http://mylibrary.maeda1.jp/oilandgas.html>

マイライブラリーNo.:0501

2020.5.8

三大産油国米露サウジのつばぜり合い

目次	頁
Part 1:970 万 B/D 協調減産に至る道	1
Part 2:原油の生産量と価格の推移	4
Part 3:各国の石油戦略は？	7

Part 1:970 万 B/D 協調減産に至る道

2019 年 3~4 月 減産交渉クロノロジー

(注)OPEC+協調減産参加国

OPEC 加盟国(10 カ国、生産量の多い国順):

サウジアラビア、イラク、UAE、クウェイト、ナイジェリア、アンゴラ、アルジェリア、コンゴ、ガボン、
エクアトール・ギニア (イラン、リビア、ベネズエラ 3 か国は対象外)

非 OPEC 産油国(10 カ国、生産量の多い国順):

ロシア、メキシコ、カザフスタン、オマーン、アゼルバイジャン、マレーシア、バハレーン、南スーダン、ブルネイ、スーダン

(*)協調減産に参加していない主な産油国:米国、ノルウェー、カナダ、ブラジル

3 月初 コロナウィルスによる石油需要急減で 100 万 B/D の追加減産を検討

OPEC and allies to consider significant oil output cuts as coronavirus hits demand

2020/3/3 The Peninsula

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/03/03/2020/OPEC-and-allies-to-consider-significant-oil-output-cuts-as-coronavirus-hits-demand>

3 月 5 日 OPEC 臨時総会開催、7 月末まで OPEC100 万 B/D、非 OPEC50 万 B/D 削減声明発表。

OPEC 178th (Extraordinary) Meeting of the Conference concludes

2020/3/5 OPEC Press Release

https://www.opec.org/opec_web/en/press_room/5865.htm

同日 削減期間を年末まで延長すると OPEC 事務局修正発表。

(ロシア、サウジに同調せず協調減産体制崩壊)

OPEC Heads of Delegation hold further consultations
2020/3/5 OPEC Press Release
https://www.opec.org/opec_web/en/press_room/5866.htm

3月8日 サウジ、原油価格の4~8ドル値下げ発表、
Saudi Arabia slashes oil prices after collapse of OPEC+
2020/3/9 Arab News
<https://www.arabnews.com/node/1638781/business-economy>

3月9日 原油価格暴落、WTI 32ドル。エネルギー市場、「海図なき領域に突入」
Energy markets headed into uncharted territory as crude prices slump
2020/3/10 Arab News
<https://www.arabnews.com/node/1639246/business-economy>

3月10日 サウジ、生産能力一杯の1,300万B/Dまでの引き上げを表明。
Saudi Arabia ramps up oil production to record level
2020/3/11 Arab News
<https://www.arabnews.com/node/1640036/business-economy>

3月19日 原油価格大幅下落、WTI 22.53ドル、Brent 27.20ドル。
Oil falls 10%, on track for worst month on record
2020/3/20 Khaleej Times
<https://www.khaleejtimes.com/coronavirus-outbreak/oil-falls-10-on-track-for-worst-month-on-record>

3月20日 コロナウィルスで世界の石油需要1億B/Dの10%、1,000万B/D下がる:市場専門家
Oil demand to fall more than 10%, says top trader
2020/3/21 Arab News
<https://www.arabnews.com/node/1644621/business-economy>

3月26日 ロシア、4月以降の対策をサウジ他と協議。トランプ大統領、サウジ/露調停の意向表明
Russia calls for new enlarged Opec deal to tackle oil demand collapse
2020/3/27 Khaleej Times
<https://www.khaleejtimes.com/business/energy/russia-calls-for-new-enlarged-opec-deal-to-tackle-oil-demand-collapse>

3月26日 石油精製企業、需要減で稼働率、利益急減。日本のJXTG、3千億円の赤字決算予想。
Global refiners to deepen oil output cuts as demand slumps
2020/3/27 Arab News
<https://www.arabnews.com/node/1647976/business-economy>

3 月末 原油トレーダー、売り先未定の homeless crude 売り抜けに必死。

Traders scramble to sell crude cargoes as glut grows

2020/4/1 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1650871/business-economy>

4 月 1 日 サウジ、OPEC+臨時会合を呼びかけ。トランプ大統領、ロシア大統領、サウジ国王と電話協議。

Saudi Arabia calls 'urgent' meeting of oil producers

2020/4/2 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1652061/business-economy>

4 月 1 日 サウジアラムコの生産量 1,200 万 B/D 超える。

Saudi Arabia pumps 12m barrels of oil for the first time

2020/4/2 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1651401/business-economy>

4 月初 ロシア大統領、国内石油企業トップと協議、米大統領も ExxonMobil、シェール業者と協議。

Virtual oil summit planned amid ongoing market volatility

2020/4/4 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1652826/business-economy>

4 月 3 日 原油価格急回復、Brent 34ドルに。

Oil surges more than 13% on hopes of output deal

2020/4/4 Khaleej Times

<https://www.khaleejtimes.com/business/oil-surges-more-than-13-on-hopes-of-output-deal>

4 月 4 日 サウジとロシアが非難合戦。6 日予定の OPEC+臨時会合遅れる。

Covid-19 impact: Opec+ meeting delayed as Saudi Arabia, Russia row over price collapse

2020/4/4 Khaleej Times

<https://www.khaleejtimes.com/coronavirus-pandemic/covid-19-impact-opec-meeting-delayed-as-saudi-arabia-russia-row-over-price-collapse>

4 月 4 日 カナダ、ノルウェー、減産協力の意向表明。

Blame-game stalls OPEC+ meeting

2020/4/5 Kuwait Times

<https://news.kuwaittimes.net/website/blame-game-stalls-opec-meeting/>

4 月第 1 週 プーチン露大統領：OPEC+で 1,000 万 B/D 削減同意。ロシア 3 月生産量は 1,129 万 B/D。
OPEC+ may reach output cut if US joins

2020/4/7 Kuwait Times

<https://news.kuwaittimes.net/website/opec-may-reach-output-cut-if-us-joins/>

4月9日 第9回 OPEC+閣僚会合、TV 会議方式で開催。メキシコ合意を条件に 5-6 月 1,000 万 B/D 協調減産に合意。

The 9th (Extraordinary) OPEC and non-OPEC Ministerial Meeting concludes

2020/4/9 OPEC Press Release

https://www.opec.org/opec_web/en/press_room/5882.htm

4月9日 メキシコ石油相: 40 万 B/D 削減案は拒否、10 万 B/D なら容認。

Saudi Arabia hosts virtual G20 energy ministers meeting

2020/4/10 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1656486/business-economy>

4月10日 市場は OPEC+の決定に数量面、実効性で疑念。原油価格下落。

Skeptical oil markets to deliver verdict on 'historic' oil deal

2020/4/11 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1656836/business-economy>

4月10日 サウジ主催の G20 エネルギー相会合開催(TV 会議方式)。コミュニケで OPEC+の削減に言及なし。

G20 energy ministers favor measures to rebalance global oil markets

2020/4/11 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1656856/business-economy>

4月12日 第10回 OPEC+閣僚会合開催(TV 会議方式)。5-6 月 970 万 B/D、7-12 月 770 万 B/D、2021.1-2022.4 月 580 万 B/D 減産で合意。減産率 23%、基準値はサウジ、ロシアは 1,100 万 B/D、その他は昨年 10 月の実生産量。

The 10th (Extraordinary) OPEC and non-OPEC Ministerial Meeting concludes

2020/4/12 OPEC Press Release

https://www.opec.org/opec_web/en/press_room/5891.htm

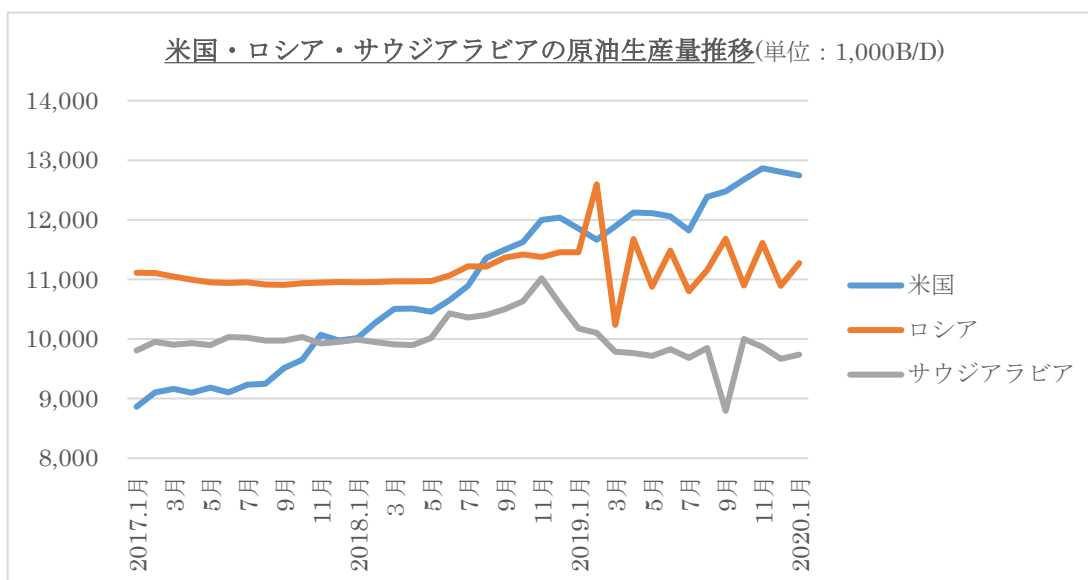
Part 2: 原油の生産量と価格の推移

1. OPEC+(プラス)協調減産後の米露サウジ原油生産量

2016 年 12 月、OPEC 産油国とロシアなど非 OPEC 産油国が減産について協議した結果、翌 17 年 1 月から 6 か月間両者合わせて 120 万 B/D を減産することとなった¹。OPEC+(プラス)と呼ばれたこの体制はその後数度にわたり延長され、昨年 12 月には減産幅をさらに 170 万 B/D に拡大した。この時同時にサウジアラビアは 40 万 B/D を自主減産すると申し出ている²。

OPEC の盟主サウジアラビアと非 OPEC 産油国の雄ロシア、そして OPEC+のカルテルに参加しない米国は共に 1 千万 B/D 前後の原油を生産する三大産油国である。これら 3 か国に次ぐ世界 4 位の産油国カナダの生産量はこれら 3 か国の 2 分の 1 程度(500 万 B/D 強)にとどまり、米露サウジ 3 か国は世界全体の生産量の 4 割を占めている。

これら 3 か国について 2017 年 1 月以降の原油生産量を月別に見たのが下図である。



なお、各国の生産量データの出典はサウジアラビアが OPEC Monthly Oil Market Report、米国は EIA(米国エネルギー情報局)、ロシアはエネルギー省統計である。ロシアエネルギー省の生産統計はガスコンデンセートを含む月産トン数であり、本稿ではこれを B/D(一日当たりバレル生産量)に換算して比較した³。

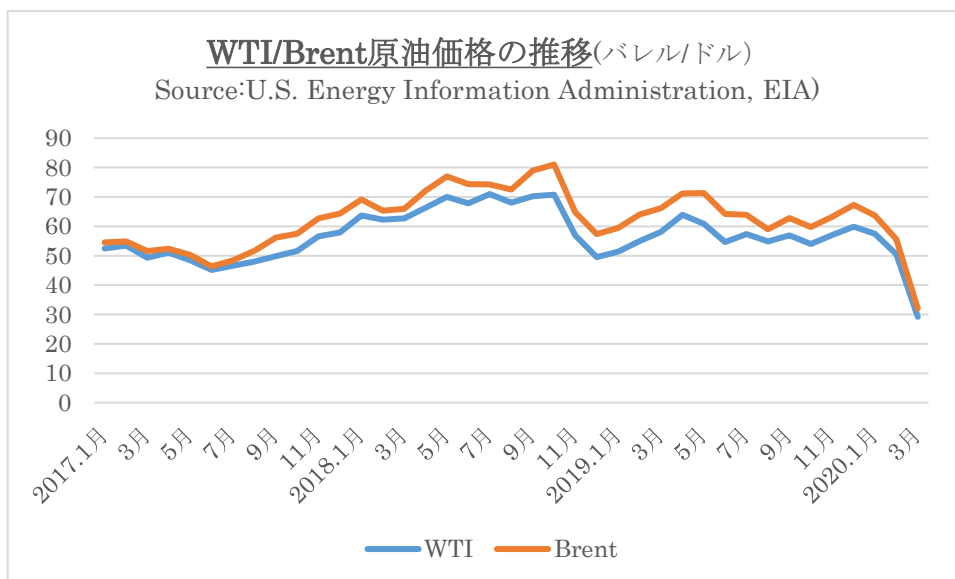
2017 年 1 月の 3 か国の生産量はロシアが 11,111 千 B/D と最も多く、次いでサウジアラビア 9,809 千 B/D で、米国は 3 か国のなかでもっとも少ない 8,863 千 B/D であった。その後ロシアとサウジアラビアが協調減産を続けている間に米国では中小業者が多数を占めるシェール石油企業が増産を重ね、2017 年 11 月には 1 千万 B/D を超え、サウジアラビアをしのご世界第 2 位に躍り出た。さらに 2018 年 8 月には 1,136 万 B/D に達しついにロシアを超えて世界一の原油生産国になっている。

米国の生産量はその後も増え続け、今年 1 月は 1,274 万 B/D である。同じ月のロシア及びサウジアラビアの生産量はそれぞれ 1,128 万 B/D 及び 974 万 B/D であり、米国の生産量はロシアを 150 万 B/D、サウジアラビアを 300 万 B/D 上回る状態である。因みに 2017 年 1 月の生産量を 100 とした場合、2019 年 1 月の各国の生産量は、米国=144、ロシア=101、サウジアラビア=99 となる。この事実は 2017 年及び 2018 年の過去 2 年間、ロシアとサウジアラビアは原油価格を下支えするため生産を抑制したのに対し、米国のシェール石油企業は一気に増産したことを示している。

2. 2017 年 1 月以降の原油価格の推移

次に国際指標原油とされている北海 Brent 原油及び米国 WTI 原油の 2017 年 1 月以降の月単位の値

動きを示したのが下図である。(出典: EIA、米国エネルギー情報局)

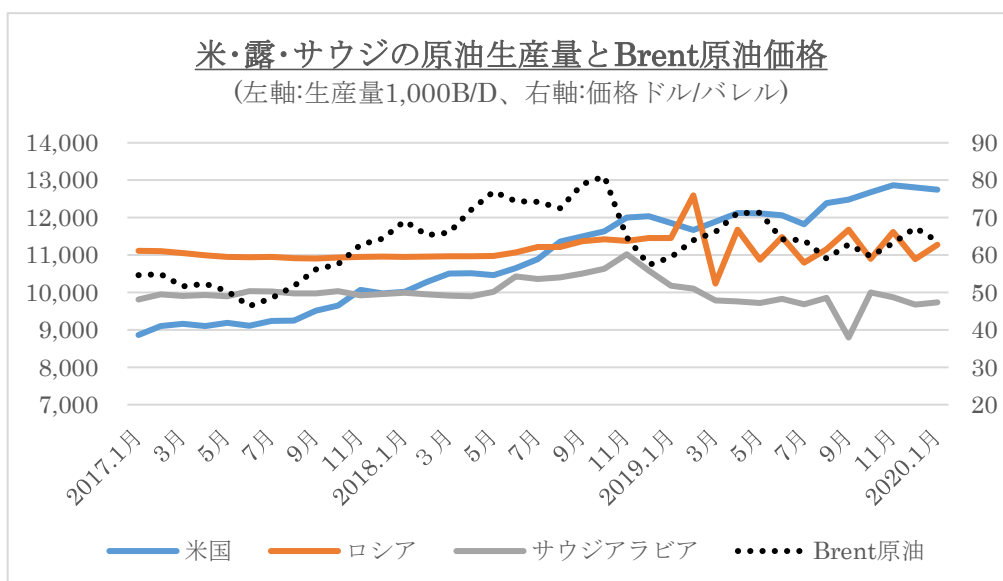


2017年1月の原油価格は Brent がバレル当たり 54.6ドル、WTI が 52.5ドルであった。6月には Brent 46.4ドル、WTI 45.2ドルに下がったが、同月に OPEC+が減産継続を決定して以降、価格は上昇に転じた。2018年9月に Brent 原油は 80ドル目前(78.9ドル)まで上昇、WTI も 70ドルの大台を超えている(70.2ドル)。

その後、OPEC が増産姿勢を見せたため、年末にかけて価格は急落、12月には Brent 57.4ドルに、また WTI は 50ドルを切る(49.5ドル)水準に落ち込んだ。この時も年末の OPEC+会合で減産継続を打ち出したことにより、翌 2019年 Brent は 60~70ドル台、WTI も 50ドル台後半で推移した。

3. OPEC+の協調減産にただ乗りした米国のシェール石油業者

上述の生産量と原油(Brent)価格の推移を重ね合わせると下図のようになる。



一見してわかる通り 2017年1月から2018年9月までは原油価格の上昇に歩調を合わせるように米国

の原油生産量が増加している。一方、この間、ロシアとサウジアラビアの生産量は共にほぼ横ばいの状況である。つまり OPEC+の減産による原油価格の上昇を見て米国シェール業者は金融機関から資金を調達、相次いで増産に走ったと言えよう。

技術革新により生産原価が 30 ドル台に下がったと言われる米国のシェール業者にとって、市場価格 50~60ドルは十分すぎるほどの魅力的な価格である。そのため 2018 年後半以降もシェール業者はさらなる増産を続け、ついに昨年末には生産量が 1,300 万 B/D 近くに達し、ロシア、サウジアラビアをしのぐ世界最大の産油国の地位を確立したのである。

この間、ロシアは毎月の変動はあるものの生産量は 1,100 万 B/D 前後である。ところがサウジアラビアは価格を維持するために生産量を抑制するスウィング・プロデューサーの役割を担い、1,250 万 B/D の生産能力があると公言しながら 1 千万 B/D を下回る生産を続けてきた。言い換えれば米露サウジ 3 カ国の中で、サウジアラビアだけが犠牲を払い、米国は OPEC+の協調減産にただ乗りする構図である。

しかしそのような構図を一変させたのがコロナウィルス問題である。中国に端を発したコロナウィルス汚染は世界の経済成長を引っ張って来た同国経済を直撃、さらにウィルスが世界に蔓延して人の往来、物流、サービス等あらゆる面に地球規模の深刻な打撃を与えており、景気回復のきっかけが見当たらないのが現状である。石油市場はこれまでの供給過剰圧力に加え、急激な需要の減退に直面し、価格が崩落する深刻な事態を招いているのである。

Part 3:各国の石油戦略は？

1. 各国トップと石油産業:類似点と相違点

三大産油国である米露サウジのトップはそれぞれトランプ大統領、プーチン大統領及びサルマン国王である。サウジについては石油・外交・経済政策など全般をムハンマド皇太子が実質的に取り仕切っているため本稿では国王/皇太子を一体化して論を進める。

米露は有期の大統領制国家であり、サウジは世襲の絶対君主制国家という違いはあるが、現在の統治者がいずれも強権的、独裁的である点では共通している。従って各国の石油政策はトップの意向に強く支配されることになる。

一方で各国の石油産業構造にはかなり大きな違いがある。米国は自由経済の国であり、石油産業にはExxonMobilのような巨大企業から小規模なシェールオイル業者まで多数の企業が乱立している。ロシアはガスプロム、ルクオイルなど企業数はさほど多くない。サウジアラビアは国营石油会社サウジアラムコー社だけである。

この二つの事情が意味するところは、各国トップの国内石油産業に対する指導力の強弱に表れる。民間企業を恣意的に制御できないトランプ米大統領は業界有力者との話し合いを強いられる。プーチン大

統領は強権的手法を駆使して国内の石油企業を従属させる。サウジアラビアの国王/皇太子は国営企業アラムコを意のままに操ることができ、政策決定のスピードでは米露を圧倒できる。万一石油政策が失敗した場合、米国の大統領は「推定有罪」、ロシアの大統領は「推定無罪」、サウジアラビアの国王/皇太子は「完全無罪」である。絶対専制君主制のサウジアラビアでは国王/皇太子は誰からもその責任を問われないからである。

2. 3カ国の強みと弱み

3カ国にはそれぞれ強みと弱みがある。米国の強みは世界最強の軍事力・経済力及びドルによる金融支配力である。石油産業に限れば米大統領の弱みは民間の石油業界に直接あるいは間接に介入することができないことである。今秋の再選を目指すトランプ大統領にとって石油産業の雇用を維持すると同時に、一般消費者には安価で豊富なガソリンを供給することが必要である。しかしこの二つは本来二律背反である。これまで両立できたのは、OPEC+(プラス)の協調減産と、米国のイラン及びベネズエラに対する経済制裁により供給が抑えられた結果、石油価格が60ドル前後で推移し、同時に国内シェール業者の開発ブームにより雇用が創出されたという、二重の僥倖に支えられていたのである。

ロシアの強みと弱みは西欧諸国に対する石油・ガスの供給力であり、また中東に対して一定の影響力を有していることである。これはユーラシア大陸でロシアと中東及び欧州が陸続きであることがその要因である。但し一方では不安定なユーラシア情勢に揺さぶられるという弱みでもある。

サウジアラビアは米国、ロシアと比べ現状では安定していると言えよう。原油の余剰生産能力は2カ国より大きく、低価格に対する耐久力も高い。国内には国王/皇太子に対抗する勢力はなく体制は安定している。これまでのオイルマネーの蓄積により財政的に余裕があり、今後経済が低迷するとしても国王/皇太子は当面、金をばらまくゆとりがある。同国のただ一つの弱みは米国に完全追随せざるを得ないことであろう。防衛力は極めて脆弱であり、米国製近代兵器によってかろうじて支えられているのが現実である。イエメン内戦による自国への脅威を防ぐには米国に頼るしかない。これまで共同防衛行動をとってきたUAEなどのGCC各国、あるいはエジプトとの関係は現在必ずしも良好とは言えないからである。

3. 今後の3カ国の戦略は？

昨年未までの石油需給バランスはもっぱらサウジアラビアとロシアによるOPEC+の協調減産とこれにタダ乗りする米国シェール石油企業の増産により供給バランスが保たれてきた。しかし昨年未からのコロナウィルス禍により世界経済は突然変調をきたし、石油需要は激減、Brent原油価格は60ドルから20ドル台に急落している。因みに最新のIMF世界経済見通しによれば、今年の世界の成長率は前回(昨年10月)の予測+3.4%から一転して-3.0%に落ちている。米国、日本など主要国も軒並みマイナス成長に転落、過去数年6%以上の成長を続けていた中国も今年は1.2%に急落する見通しである⁵。またExxonMobilの第1四半期はマイナス決算になり⁶、シェール石油企業は倒産の危機に見舞われている⁷。

状況が悪化する中で3カ国は今後どのような石油政策を展開するのであろうか。米国は圧倒的な国力を背景に自国に有利な片務的ディール(取引)に専念しそうである。先のOPEC+会合で970万B/D協調減産が合意したとき、OPEC+は米国にも具体的な減産を求めたが、トランプ大統領はカナダやメキシコの減産には触れたものの、自国については原油価格の下落に伴い国内企業はやむを得ず減産する

であろうと述べるにとどまった。もし減産を強制すれば再選の支持基盤である石油業界の反発を受けるからである。

これに対してエネルギー政策と、西欧・中東に対する外交政策を天秤にかけるのがロシア大統領である。米国が中東離れを宣言、EUもBrexitなど内部問題に手を取られている隙に、ロシアはクリミア併合、シリアのアサド政権支援など敵失に乗じて得点を挙げている。

サウジアラビアはどうかと言えば、3カ国の中では最も弱い立場にある。石油の輸出に頼る同国は、環境問題に絡んだ石油から天然ガスへの転換では、天然ガスの生産と輸出に強いロシアに後れを取っている。当面の財政難を乗り切るため外貨の取り崩しが続けば、近い将来赤信号がともることは避けられない。その時、これまでのレンティア国家(金利生活)に慣れ切ったサウジ若年層は耐えられないであろう。

完

本件に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行

maeda1@jcom.home.ne.jp

¹ 2017年2月「(ニュース解説)OPEC減産合意の経緯」参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0397OpecProductionCut.pdf>

² 2019年12月「OPEC+(プラス)の減産強化は持続可能な路線か？」参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0488OpecDec2019.pdf>

³ 各URL及び換算率は下記の通り。

OPEC Monthly Oil Market Report: https://www.opec.org/opec_web/en/publications/338.htm

米国EIA: <https://www.eia.gov/dnav/pet/hist/LeafHandler.ashx?n=PET&s=MCRFPUS2&f=M>

ロシアエネルギー省: <https://minenergo.gov.ru/en/activity/statistic>

月産トン数→B/D換算率: 月産トン数 × 7.33 / (当該月の日数)

⁴ 「OPEC・非OPECの協調減産は守られているか? (含、OPEC総会)【2017年6月現在】」

<http://mylibrary.maeda1.jp/OpecNonOpecSupplyCutJun2017.pdf>

⁵ レポート「大恐慌以来最悪の景気後退(The Great Lockdown): IMF世界経済見通し2020年4月版」参照。 <http://mylibrary.maeda1.jp/0500ImfWeoApr2020.pdf>

⁶ US oil giants slash capital budgets after crude crash

2020/5/2 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1668326/business-economy>

⁷ US oil giant halts shale output, seeks to cancel sales contracts

2020/4/25 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1664671/business-economy>